

<p>おやじ必読 おやじ メール <i>O-mai!</i></p>	<p>試作号 12年3月 平和幼稚園 おやじクラブ</p>
--	---

この新聞は、おやじクラブから平和幼稚園の全園児のおやじへの情報発信のために企画されたものです。まだ試作号ですが、是非ご一読を。

## たまには育児雑誌でもいかが？

「子育ては大人にとって大きな癒し」

東京大学大学院教育研究科佐藤教授

ブチタンファン12月号から要約版

最近、学級崩壊の原因が幼児期からの子育てや幼稚園教育にあるという論が出ていますが、幼児期を原因とするのは短絡的。

荒れる子供の裏には大人の存在がある。家庭の崩壊や、家族関係の希薄さがある。だから、自分では子供をまともに育ててきたつもりでいたのに、突如子供が暴れ出すなんてことはありえない。

幼児期の育ちで一番大切なのは、親にたっぷりりと依存することです。それがあれば、安定するし、あとから自立がきっちりできる。

親がたっぷりりと依存させてくれると、基本的な安心感が芽生える。いろんな問題があっても、それは大きな支えです。

子供は「ものが欲しい」といっては、親の愛情を確かめている、親の側でそれが見えているかどうかが大切。要求されたとき物を買ってやるのも、「ダメ」と叱りとばすのも間違い。本当に子供が求めているのは安心です。子供は一人では生きられない悲しい存在ですから。

子育ては、大人にとって大きな癒しになっているからできること。子供は生活を潤わせてくれるし、生きている意味を考えさせてくれる。フィフティ・フィフティです。

だいたい、快樂というものは、苦痛を伴い、しんどいものです。それが幸せかどうかは人間の度量です。苦勞のないところには無感情があるだけ。快樂も感動もない。だったら、悪戦苦闘して、子供とどうやっていっしょに生きていくか考えればいい。

## おやじのつぶやき

「我思う 故に我あり(!?)」

11組 小林 圭一

思うに、「幼児教育」だとか「子育て論」だとかそんな難しい言葉から入っていったら「おやじクラブ」に発展はなかったのかもしれない。

子供と一緒に遊ぶことは、親なら誰だってできる。だから「子供と遊ぶこと」に重きを置いたこの活動は、基本的に簡単なことである。

園長先生などから「素晴らしい」といわれるより、子供に「面白いからまたやろうね!」といわれる方が素直に喜べる(園長スミマセン)。

この会のおやじたちは私の知らない「面白いこと」をよく知っている。釣り、ドッジボール、普段の遊びにしても学ぶことは多い。

かつて、おやじクラブの先輩が力説していた「親が面白くなくて子供が楽しめるか?」は、自分たちの姿勢を表す言葉である。

人との関わり合いを通じて遊びを覚えると、そこで突き当たるのがマナーであろう。ゴミを決められた所に捨てる、挨拶をする、されて嫌なことは人にしないなど、当たり前のことを当たり前に教えることが大切。

自分が小さい頃によくいた近所の口うるさいおやじは、今なかなか居ない。ならば、おやじクラブみんなで自分や他人の子を育てていこうではありませんか。

口うるさいけど、楽しい、そんな本音のつきあいをしましょう!

## 先生から「ファイト!一発」

「母性と父性が躍動する幼稚園」

副園長 長谷川 右

近ごろの世の中では少女監禁事件をはじめ大変ショッキングで異常な事件が多発していますが、いったい全体どうなっているんだろうと、みなさんが感じていることと思います。

こういった異常な事件には片寄ったあるいは欠如した「母性」「父性」の影響や、トラウマをもってしまった子どもの姿が浮かんできます。

11年度の平和幼稚園の「子育て公開講座」に講師としてお招きした北海道大学教授の澤口俊

之先生は「幼児教育と脳」の中で、この「母性」や「父性」の重要性について論じています。特に「幼稚園や小学校低学年の先生には父性をもった人物になってもらいたい」と述べ父性の子どもに対する影響の大きさを述べています。（これは男性教員でなければならないということではありません。女性の先生でも「父性」はもち得るし、男性の先生にも母性が必要です。）

また、父性の役割として、澤口教授は次のように喝を入れられています。「その本質的な役割は、家庭内で秩序を作り、社会のルールと規範、価値観・倫理観を子どもたちに植え付けることだ。これは容易に見えて、実は大変な実力が要求される。社会の規範や倫理・価値観...いわば『社会的公理』...には論理的な根拠はないのだから、不毛な議論は不要である。例えば『少女売春・援助交際はいけない』とか『人を殺してはいけない』、逆にポジティブな言い方では『みんなを幸福にすべし』といった倫理・価値観に理論的な根拠など全くいらない。理論をもって議論に持ち込もうとすれば『こっちの勝手じゃん』の一言で終わってしまう。そもそも社会的公理が共有されてこそ、議論が成り立つのであって、『みんなを幸福にすべし』といった公理が共有されてはじめて、互いに納得のゆく議論もできるし、諸ルールも確立できるのだ。そして、『ある公理はその公理体系から決して証明できないという冷厳たる命題（有名なゲーデルの命題）』があり、この命題を知っていれば、子どもたちと不毛な議論などしている意味も暇もないはずだ。（『私がルールだ！』と一蹴して叱ればいいのだ。（ただし、『叱る』と『怒る』をはき違えてはいけない。）社会的公理を共有させるには、『話し合い』など一切不要であり、そういった意味で父性の存在が大きく問われるのだ。」

少し乱暴な論述とも受けとめられますが、「子どもは父親の背中を見て育つ」に通じる部分もあるように思います。

子供にとっては「母性」に片寄った環境が多い中、平和幼稚園は「母性と父性のバランス」のとれた幼稚園であると感じております。とりわけ おやじクラブ の存在は「父性」の象徴でもあると思います。

そして、このバランスのとれた環境が家庭や社会のなかに位置付けられてこそ、子どもは「生

きる力」を自ら育てていけるに違いありません。

## 報告（お-クラブで開催されたイベント等の報告）

今回はお休みさせていただきます。  
機関誌おやじをご覧ください。

## お知らせ（お-クラブ主催イベント等のお知らせ）

今回は年度の端境期で、特にお知らせするイベントはありません。

こちらもお休みです。

## 後記

おやじクラブは、「おやじに地域社会の子育てに積極的に参加する機会を」を合い言葉に発足し、10年目を迎えます。その間のクラブの活動は、参加したおやじ達やその家族にだけではなく、平和幼稚園の教育活動や各地の「おやじの会」設立に影響するなど、功績は多大なものがあります。しかし、「ただののんびりの集まりでないか」なんて噂があるとか...本当にみんな大酒のみばかりで、決して上品な集まりとは言えないのですが...

そこで、「おやじクラブの活動の姿をもっとPR すべきでないか」、「参加できないおやじにもプラスになるようなことをすべきでないか」という声があがり、全園児のおやじを対象にO-mail を発行する運びとなりました。第1号の発行は4月ですが、卒園されるおやじに「おやじクラブなんてのがあったな」と思い出してもらえるように、試作号を編集してみました。

この新聞は、おやじ達の情報交換の場として、おやじ達の声で作って行こうと思います

自由にご発言ください。お待ちしております。

担当：なみかわ

E-mail：namikawa@mpd.biglobe.ne.jp